日本史の始まり

世界史の上で、人類文化の最古の時代を旧石器時代という。この時代に属する文化が我が国で最初に発見されたのは、1949 年の群馬県岩宿遺跡の発掘においてであった。「日本に旧石器時代はない」という、学界の保守的な意見を前に、発掘前は研究が進まなかった。日本での旧石器時代研究はまだ緒についたばかりである。

○ 気候と人類

●地球と列島の気候変動

約 260 万年前、地球は間氷期（かんぴょうき）と氷期を交互に繰り返す

(1)＿＿＿＿＿＿＿＿（(2)＿＿＿＿＿＿時代）を迎えた。

→著しい気温の上下で、氷河の大規模な溶解・形成があった。

→つまり、海面の(3)＿＿＿＿＿＿＿＿があったことを意味する。

⇒この時代において、大陸と離れていた日本列島も、

アジア北東部と少なくとも２回陸続きになった。

↓

陸続きの時に、大型動物が日本列島に渡来した。

→ヘラジカ・マンモスが北海道以北に、オオツノジカ・**ナウマンゾウ**が

北海道以南にほぼ分布した。

⇒長野県(4)＿＿＿＿＿＿は、ナウマンゾウの化石が出土したことで知られる。

図１　約２万年前の日本列島
＊細線は現在の海岸線

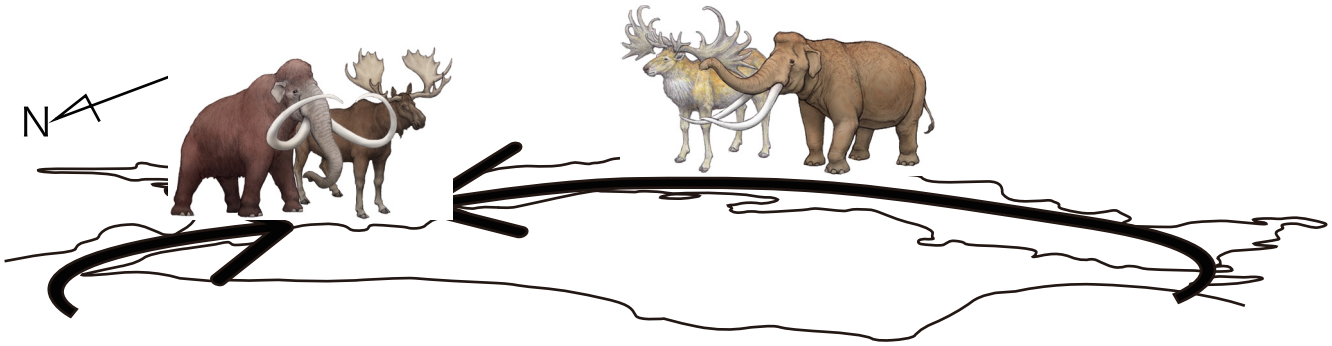

図２　日本列島への大型動物の移動・分布

●人類の進化

約 700 万年前（新生代第三紀）、人類が誕生がした。

⇒人類は、猿人・原人・旧人・新人の順に出現していった。

↓

現在日本列島で発見された更新世の化石人骨は、

沖縄県の(5)＿＿＿＿＿＿＿＿・山下町洞人（やましたちょうどうじん）や

静岡県の(6)＿＿＿＿＿＿＿＿などが挙げられる。

⇒これらは、いずれも新人段階の人類である。

◇骨などの放射性元素(7)＿＿＿＿＿14 の濃度で年代可能

◇明石人は新人とする説が有力

↓

上記の人骨の特徴を受け継ぎ、また、弥生時代以降の

渡来人と混血を繰り返して「日本人」が形成された。

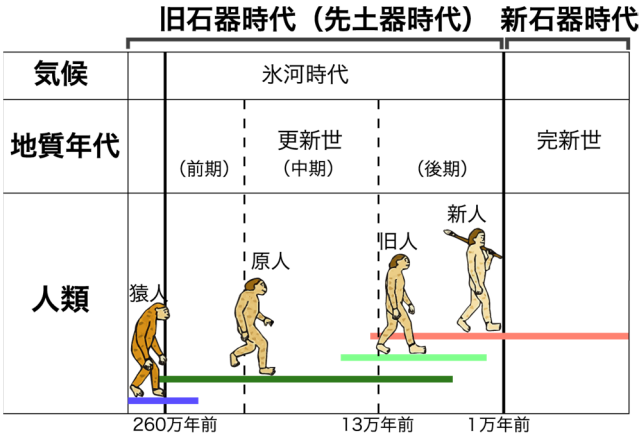

図３　気候・地質年代・人類の推移

○旧石器時代

●石器による時代区分

人類がまだ金属器を知らない時代は、(8)＿＿＿＿＿＿と呼ばれる。

→(8)はさらに、(9)＿＿＿＿石器を用いた(10)＿＿＿＿＿＿と、

(11)＿＿＿＿石器が出現した(12)＿＿＿＿＿＿に分けられる。

⇒地質年代では、(10)は主に(13)＿＿＿＿＿＿にあたる。

◇完新世（約１万年前～現在）になると（12）の幕開け

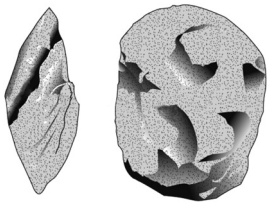

図４　打製石器（左）・磨製石器（右）

●アマチュアによる旧石器時代の発見

かつて、日本列島に旧石器時代の遺跡は存在しないと考えられた。

⇒日本列島での人類の歴史は、縄文時代からとされていた。

↓

1946 年、(14)＿＿＿＿＿＿が(15)＿＿＿＿＿＿から石器を発見した。

⇒石器を発見した場所（群馬県(16)＿＿＿＿＿＿）の調査、

そして各地での遺跡の調査が進み、これまでの常識を根底から覆した。

◇(15)…更新世の火山活動で、関東平野に積もった火山灰の地層

図５　火山灰層の分布

批難に屈しない考古学への情熱―相沢忠洋

独学の末に石器を発見した相沢忠洋は、1949 年に明治大学の学者たちと岩宿遺跡を調査、日本の旧石器時代の存在を証明した。しかし、報告は大学の名義でなされ、相沢は調査の単なる付き添い役として、学界から存在を無視された。加えて、功績をねたむ学者・地元住民から売名行為と批難を浴びた。

その後も相沢はアマチュアとして地道な調査活動を続け、多くの遺跡発見に貢献した。やがて相沢への批難は消え、正当な評価がなされた。

右図は岩宿遺跡の相沢の像。常識を覆した石器を手に、じっと見つめている。

●旧石器時代の生活

旧石器時代の人々は生活のなかで(17)＿＿＿＿石器を用いた。

⇒この石器には形状・用途別に、打製石斧・(18)＿＿＿＿＿＿・

(19)＿＿＿＿＿＿、そして組合せ式の(20)＿＿＿＿＿＿があった。

◇(20)…木の柄や骨に数本埋め込んで組合せ、投げ槍などに使用

ロシアのバイカル湖周辺から伝播

↓

人々は上記の石器を使用し、動物の(21)＿＿＿＿と、

植物性食料の(22)＿＿＿＿をおこなって食料を得た。

◇旧石器時代での漁労の痕跡は未発見

↓

(21)(22)のために、人々は絶えず一定の範囲を移動した。

⇒従って、住まいには簡易なテント式の小屋や洞穴を利用、

また、大型動物を捕らえるために 10 人程度の集団生活であった。

図６　ナイフ形石器（左）・尖頭器（右）

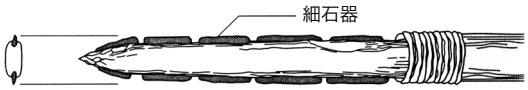

図７　細石器を埋めた槍